高年级

日语精读

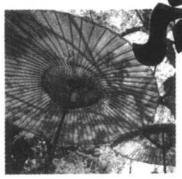
（第一册）

● 赵华敏　彭广陆　李奇楠 编著　● 顾海根　中原尚道 审校

上海译文出版社

北京大学外国语学院日语系

H369.4/54
:1
2003



高年级

日语精读

（第一册）

编著 赵华敏 彭广陆 李奇楠
审校 顾海根 中原尚道

上海译文出版社

图书在版编目(CIP)数据

高年级日语精读. 第一册 / 赵华敏, 彭广陆, 李奇楠编著, 一上海: 上海译文出版社, 2003.12 (2007. 8重印)
ISBN 978-7-5327-3166-4

Ⅰ. 高… Ⅱ. ①赵… ②彭… ③李… Ⅲ. 日语—高等学校—教材
Ⅳ. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2003)第 049469 号

この教材は国際交流基金日本語国際センターの助成を受けて制作されました。

版权所有 违者必究

高 年 级
日 语 精 读
第 一 册
赵华敏 彭广陆 李奇楠 编著
顾海根 中原尚道 审校
上海世纪出版股份有限公司
译 文 出 版 社 出 版、发 行
网址: www.yiwen.com.cn
200001 上海福建中路193号 www.ewen.cc
全 国 新 华 书 店 经 销
上海宝山译文印刷厂印刷

开本 787×1029 1/16 印张 14.75 字数 250,000
2003 年 12 月第 1 版 2007 年 8 月第 3 次印刷
印数: 7,351-10,600册
ISBN 978-7-5327-3166-4/H · 567
定价:23.00 元

如有质量问题, 请与承印厂质量科联系。T:021-56476717

前　言

《高年级日语精读》是国家教育部外语教学指导委员会主持的“21世纪主干基础课教材”之一，供日语专业三、四年级学生使用。各册教材由课文、注释、词汇、语法、惯用语的用法、练习、阅读课文、附录等内容组成。

本教材的编写以《高等院校日语专业高年级阶段教学大纲》中对“日语综合技能课”的要求为依据，在选材上尽可能涵盖了文化、社会、科学、语言、文学等多方面的内容，力求使学生在巩固基础阶段所学的语言知识的同时，进一步提高驾驭日语的综合能力。

本教材在编写过程中，得到先后在北京大学任教的日本文教专家渡边爱二、中田敏夫、中原尚道、酒井惠美子等先生的大力支持，他们参加每周一次的编委会，审订教材内容，对编写工作提出了许多合理的建议。另外，本教材所采用的课文都选自日本的出版物，原文作者和有关出版社都给予了积极的支持，上海译文出版社也为此教材的出版做了大量的工作。谨此一并表示谢忱。

由于编者水平有限，缺乏经验，加之时间仓促，因此书中难免有这样或那样的谬误之处或缺憾，敬请读者批评指正。

编者

2003年3月

第一册说明

一、正文

本册共分 12 课。由以下内容构成：

课文（本文） 本册课文选用了随笔、演讲、小说、评论等不同体裁的文章，内容清新，饶有趣味。难度上照顾到由基础阶段向高年级阶段的过渡。

注释(注釈) 诠释课文中出现的专业术语及专有名词，以帮助使用者更好地理解课文内容。

词汇(新しい言葉) 以《高等院校日语专业基础阶段教学大纲》以外的词汇为主进行注释，并标出声调。

语法(文法) 对基础阶段未曾出现的语法项目进行了讲解、说明；对已出现过、但有一定难度、基础阶段不宜过多涉及的语法现象做了进一步的归纳、整理。为增强学生阅读、理解的能力，所使用的例句除个别经过加工之外，绝大部分均为实例。

惯用语用法(言葉の使い方) 利用大量实例，对常用的惯用语做了详尽的解释，弥补了以往教材的只作释义或只举少量例句的缺陷。有助于使用者加深对惯用语意义和用法的理解。

练习(練習) 分别设立了“言葉の学習”、“文法の練習”、“表現の工夫”、“内容の理解”4 个项目，通过大量的专项和综合练习，以达到巩固所学知识的目的，从而在加深对日本人的语言心理和语言文化背景理解的基础上，进一步提高日语的综合运用能力。

二、阅读课文

共 6 篇。在选材上力求接近正课文的题材，以便教员作为补充教材加以利用，同时也为学生自学提供一些素材，以达到扩大词汇量之目的。

三、附录

由“新しい言葉の索引”、“文法項目の索引”、“言葉の使い方の索引”三部分组成，以便于使用者复习、检索。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

四、本书的编写、分工

课文、阅读课文由编写人员共同对所选素材加以筛选、讨论决定。具体分工和执笔者如下：

赵华敏：选材、整体设计、练习、全书统稿。

彭广陆：语法、惯用语用法、语法项目和惯用语用法的索引。

李奇楠：注释、词汇、词汇索引。

顾海根教授协助了本教材的立项工作，参与了选材工作、编委会的组织工作及全书的审订工作。原北大文教专家渡边爱二先生为本书的编写提供了大量的素材和宝贵的建议；原北大文教专家中原尚道先生对全书进行了审订。原北大本科学生蔡雷雷协助了课文和阅读课文的录入。

本书曾作为北京大学内部教材出版，在本校日本语言文化系试用两年和清华大学日语专业试用一年的基础上，经过修订，此次正式出版。尽管如此，仍有诸多不尽如人意之处，欢迎使用者提出宝贵意见，以便将来进一步完善。

本教材每课的词汇（新しい言葉）中所使用的符号和词汇属类简称如下：

一、符号

▼　非常用汉字
▽　非常用汉字音训
〈 〉熟字训

二、音调

主要以《NHK　日本語発音アクセント辞典　新版》为准，采用①②③……的形式标出。

三、词汇属类简称

〈名〉——名詞
〈副〉——副詞
〈接〉——接続詞
〈感〉——感嘆詞
〈形〉——形容詞
〈形動〉——形容動詞
〈助数〉——助数詞
〈連体〉——連体詞
〈助動〉——助動詞
〈副助〉——副助詞
〈格助〉——格助詞
〈接助〉——接続助詞
〈連語〉——連語（词组）

〈自五〉——自動詞・五段活用
〈自サ〉——自動詞・サ行変格活用
〈自上一〉——自動詞・上一段活用
〈自下一〉——自動詞・下一段活用
〈他五〉——他動詞・五段活用
〈他サ〉——他動詞・サ行変格活用
〈他上一〉——他動詞・上一段活用
〈他下一〉——他動詞・下一段活用

目　次

第一課　宇宙から見た地球……秋山豊寛　(1)
第二課　二十一世紀のおそろしさ……森本哲郎　(16)
第三課　山上の景観……辻まこと　(31)
第四課　ほんとうの顔……増田れい子　(44)
第五課　ことばと人づきあい……柴田武　(58)
第六課　転石　苔を生ぜず……外山滋比古　(79)
第七課　友情……中野孝次　(97)
第八課　相棒……内海隆一郎　(110)
第九課　水の東西……山崎正和　(132)
第十課　過保護……重兼芳子　(144)
第十一課　視線を避ける文化……井上忠司　(158)
第十二課　包む……やまだ　ようこ　(175)

〔補助教材〕
一　言葉の力……大岡信　(190)
二　忘れられない場面……津島佑子　(192)
三　日本語のこころ……金田一春彦　(194)
四　コインは円形である……佐藤信夫　(200)
五　話し方はどうかな……川上裕之　(204)
六　夢のタンゴ……曽野綾子　(208)

【付録】
文法項目索引……(213)
言葉の使い方の索引……(216)
新しい言葉の索引……(219)

第一課　宇宙から見た地球

秋山豊寛

本文

地球ウォッチングでもっとも印象的だったのは、雲が本当に多いということだった。それは水の惑星、地球の証明でもある。

ＮＡＳＡの月面から撮った地球の写真や、高度千キロメートルの衛星から撮った写真で知っている、星としての地球の絵は、どれもセンサーで撮影しているから、雲も少なくくっきりとしている。しかし、肉眼で見た地球は、本当に雲ばかりだった。

その雲はどこの上空を見ても一つとして同じものはない。千変万化で自由自在なのだ。よその星からだれかが来たら、この地球は雲ばっかりじゃないかと思うだろう。そして、雲のすきまから海が見え、陸が見える。テレビで画像を送らなければならない私としては、これはたまらないな、困ったな、というのが率直な感想だった。

しかしその雲の多彩なことは、想像以上だった。もっと雲のことを勉強しておけばよかったと後悔した。雲はたくさんあって、色々な表情を見せてくれた。

最初に日本列島を縦断した時、沖縄の上空に白く厚い強烈な雲がかかっていたけれど、その絹糸のような真綿のような雲は、本当においしそうな雲だった。

「うわー、おいしそうな雲だ。食べたいなあ。」

そう、思わず叫んでしまったほどである。

北半球の冬の一帯、例えばソ連上空も一面雲に覆われていた。最初は雪と間違えそうだったけれど、宇宙経験の長いムサ・マナロフ機関士などが教えてくれた。

彼に言わせると「一目見りゃ違いはわかる。」というのだが、最初のころは雲と雪の見分けがなかなかつかない。

徐々に慣れてくると、雪は、やはり大地にピッタリと張り付いているし、雲は浮いているのがわかるようになる。そしてその厚い雲の間に、暗く、そして雲の陰では存在感のある森林が見えてくる。それがソ連だった。

そして大気の青さ、濃紺の宇宙との境目、真っ黒で漆黒の宇宙の闇(やみ)。透明感のある青い海をバックに、熱帯の純白の雲が見える。洗い髪の女がそのまま絹の布団の上に寝ている、そんななまめかしささえ感じる雲もある。

この地球が水の星だという証明でもある雲は、それぞれの海の上でもみんな姿形が異なっていた。カリブ海に浮かぶ雲は、真っ青な海に白い綿飴のような小さな塊となって、点々と浮かんでいたし、その雲がメキシコやフロリダに近くなるとグレーが濃くなっていった。アメリカ東部沿岸部は、もっと濃いグレー。

灰色の雲は、北米も、そして日本もそうだった。大気が汚れているのか、それとも水分を多く含んでいるせいなのかは判断がつかないけれど、この雲の色相の変化は、なにか象徴的に思われた。

しかし雲に覆われているところは、地上の水分が水蒸気となって上昇している証拠だ。雲があれば雨が降る。そこでは動物も植物も生きていくことができる。そうした単純な理屈が、しみじみと感じられる。生きとし生けるものの営み。そんな言葉が胸から込み上げて来る。

アマゾンも、アジアも、ソ連にも、カリブ海にも、太平洋の真ん中にも、雲はあった。ただ、毎回、上空を通過するたびに驚いたのがアフリカそして中東だった。

ここには雲がない。ゼロというわけではないが、アフリカだという大陸の形がすぐわかる。赤茶けた大地がむき出しになって宇宙にさらされていた。

アフリカが暗黒大陸と言われた時代があった。それは暗黒なのではなく、密林に覆われた、生命の豊饒(ほうじょう)な大陸というイメージだった。ところが、今それは、生命が枯渇した地になっていた。こういうところにも昔はジャングルがあったのかなあ。そんな思いで見つめていた。西アフリカからスーダン、

エチオピアにかけて、特に北アフリカの砂漠になると、人間の営みの影も形も全くない。何一つとして、生きていることのあかしが感じられない寂しい光景だった。

「これは火星ですよ。」

この風景を見て、そう言われたとしても、納得してしまいそうな大地だった。

地上のアナウンサーに、ミールで俳句を作るように言われて、私は、こんな宇宙俳句を詠んだ。

アフリカは悲し　雲もなく森もなく

また、この雲の星、地球を見ながら、その下に人間たちの故郷があると思い、

厚き雲　覆いたる下に　祖国あり

とも詠んだ。

宇宙俳句に季語が使えない。宇宙では夏も冬も一日のうちに何度も経験する。そこでは季節感がないし、季節と結びつかないとすると、私の場合は日本と結びつく。しかし、日本と言ってしまうとインターナショナルな感じがなくなるし、このミールの飛行士たちにも使える「祖国」という言葉を選んだ。

祖国は日本とかソ連とかを超えた、地球でもある。

[角川書店『高校国語表現』による]

秋山豊寛（あきやま　とよひろ）

1942——　。東京都の生まれ。ジャーナリスト。日本人初の宇宙飛行士。『こちら宇宙特派員！』（共著）、『宇宙特派９日間』などがある。

「宇宙から見た地球」　出典は『宇宙特派９日間』(1991年刊)の「振り向けば漆黒の宇宙ひろがりて」。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

注釈

NASA　National Aeronautics and Space Administration の略称。アメリカの航空宇宙局。／（美国）国家航空和航天局。

ムサ・マナロフ機関士　1951——　。旧ソ連邦の宇宙船開発技術者兼宇宙飛行士。／穆萨・玛纳罗夫宇航员。

ミール　筆者らが乗り込んだ旧ソ連邦の宇宙ステーション。1986年に打ち上げられた。／米尔（前苏联的空间站）。

新しい言葉

ウォッチング②【watching】〈名·他サ〉　動物の生態や自然の様子を観察すること。／观察，观看。

わくせい⓪【惑星】〈名〉　恒星のまわりを回る星。特に、太陽のまわりを回る天体。地球、火星など。／行星。

センサー①【sensor】〈名〉　光・音・温度・圧力など、計測の対象となるものを検知する素子。またその装置。／传感器，感应装置。

くっきり(と)③〈副[－する]〉　（物の形が）はっきりして、きわだっている様子。／鲜明，清楚。

よそ⓪①【余▽所・〈他所〉】〈名〉　**1.** ほかの所。／别处，别的地方。 **2.** 自分の属している家・団体・社会・国などでないこと。／外，别人家，他乡，远方。 **3.**（「～をよそに」の形で）ほったらかすこと。かえりみないこと。／不顾，漠不关心。

すきま⓪【透き間・▼隙間】〈名〉　物と物との間のほんの小さな空間。／缝儿，缝隙。

たまらない⓪【▽堪らない】〈連語〉 **1.** がまんができない。／无法忍受，受不了。 **2.** がまんができないほど、すばらしい。／难以形容，……不得了。

いじょう①【以上】〈接尾〉　（数量・程度・段階などが）基準になる数量などをふくめて、それより上。／（包括所提的数量等）以上，不少于，超过。

じゅうだん⓪【縦断】〈名・他サ〉　（広い地域を）南北の方向に通り抜けること。／纵贯。

まわた⓪【真綿】〈名〉　くずまゆを引きのばして作った綿。やわらかくて、軽く暖かい。／丝棉。

みわけ⓪【見分け】〈名〉　見分けること。識別。／识别，区分。

はりつく③【張り付く】〈自五〉　平たいものが、他のものにぴったりとくっつく。／粘，贴。

のうこん⓪【濃紺】〈名〉　濃い紺色。／深藏青色。

バック①【back】〈名・自サ〉 **1.** 背。背中。また、背部。／后背，背部。 **2.** 背景。背後。また、比喩的に隠れた事情や、周囲の状況。／背景，背后。

なまめかしい⑤【▼艶かしい】〈形〉　色っぽくて、魅力的な様子。／妩媚，娇艳。

すがたかたち①【姿形】〈名〉 みめかたち。身なりと顔かたち。／姿容，姿态。
わたあめ②【綿▼飴】〈名〉 ざらめをとかしてふきつけ、綿のようにふわふわさせた菓子。綿菓子。／棉花糖。
グレー②【gray】〈名〉 灰色。ねずみ色。／灰色。
せい①〈名〉 （好ましくない状態・結果が生じた）原因を表す。／原因，缘故。
しきそう⓪【色相】〈名〉 （赤・青などの）一つ一つの色。色合い。／色调，色泽。
りくつ⓪【理屈・理▼窟】〈名〉 ものごとの道理。／道理，逻辑。
しみじみ(と)③〈副〉 深く心にしみる様子。／痛切，深切。
いきとしいけるもの【生きとし生けるもの】〈連語〉 ［古］ （「と」、「し」ともに強意の助詞）世に生きているほどのすべてのもの。あらゆる生物。／一切生物，万物。
こみあげる④⓪【込み上げる】〈自下一〉 **1.** （涙、笑いなどが）おさえきれずに出そうになる。／往上冲，往上涌。 **2.** ある感情が高まってきて、おさえきれなくなる。／某种感情涌现，油然而生。
あかちゃける④【赤茶ける】〈自下一〉 （日にやけたり汚れがしみついたりして）色が茶色っぽく変わる。／发红，变成红褐色。
むきだし⓪【むき出し】〈名・形動〉 おおいかくさないで、そのままあらわに出すこと。／露出，裸露。
さらす⓪【▼晒す】〈他五〉 **1.** 日光や雨風のあたるままにしておく。／日晒，风吹雨打。 **2.** 広く人々の目に触れるようにする。／暴露，抛头露面。
あんこく⓪【暗黒】〈名・形動〉 **1.** くらやみ。／漆黑。 **2.** 道徳・文化などが開けていないこと。／黑暗，落后。
ジャングル①【jungle】〈名〉 密林。特に、熱帯地方の原始林。／密林，热带原始森林。
よむ①【詠む】〈他五〉 和歌や俳句をつくる。／作（诗），吟，咏。
かなし【悲し】〈形〉 ［古］ 「悲しい」の文語形。／悲哀。
あつき【厚き】〈形〉 ［古］ 「厚い」の文語形。／厚。
たり〈助動〉［古］ 状態の存続・持続の意を示す。～ている。～てある。「たる」は連体形。／表示状态的存续、持续。
あり【有り・在り】〈自ラ変〉［古］ 「ある」の文語形。／有，存在。
きご①【季語】〈名〉 （俳句で）季節の感じを表すために、特に定められた言葉。／表示季节的词。
インターナショナル⑤【international】〈形動〉 国際的。国際間の。／国际的。

文 法

1. -てき（的）

「-的」は、よく使われる接尾辞で、明治時代の翻訳家が英語の-ticを翻訳する際に中国語の「的」を使用したのがその始まりである。現代日本語における新しい形容動詞は、ほとんど「-的」によって作られている。「-的」は名詞に添えて、「～

の性質を帯びた」「～の状態にある」「～に関する」という意を表す。

一時的な　運命的な　形式的な　金銭的な　経費的な

時間的な　献身的な　幻想的な　草分け的な　おふくろ的な

場当たり的な　浪花節的な　アイドル的な　ロシア的な

「－的」による形容動詞の多くは、連体修飾語になる時には、語尾「な」をつけたりつけなかったりする。例えば、次のような例が見られる。

1）a. 今回の観測では、この線状オーロラについて、世界で初めての科学的なデータを集めることができた。

b. 地元の人たちがいま一番ほしいのは、科学的データにもとづいた予測である。

2）a. 父は、外では立派で物腰が良く、家庭的な人物として通っていますが、内ではまるで正反対。

b. この論文は、家庭的要因や人間関係が、病気に関係している事例を挙げている。

3）a. 出資をやめたのは経済的な理由もあると言う。

b. 優れた学生及び生徒であって経済的理由により修学に困難がある者に対し学資の貸与等を行う。

一方、「－的」による形容動詞は、二つあるいは二つ以上並んで連体修飾語になることもある。その場合は、先行するものが語幹の形で使われていれば、後続する方は、語尾「な」をつけて使われることもあれば、語幹の形で使われることもある。

4）長年の経験によることわざは統計的、科学的な根拠がある。

5）幼児は、概念的、抽象的な思考が困難だ。

6）改革は重要な理論的、実践的問題である。

7）和解には戦略的、心理的限界がある。

しかし、先行するものが「で」の形で使われていると、後続するものが語尾「な」をつけて使われるのが普通である。

8）振り返って思う。私ってどっか打算的で依存的な女なのかなあ、と。

9）現実的で具体的な改革案を提出したい。

普通の形容動詞と「－的」による形容動詞の両方の語形を持っている場合は異なる意味を表している。

10）a. 彼女は健康な美人だ。/彼は健康だ。＜「病気でない」という意＞

b. 彼女は健康的な美人だ。/彼の趣味は健康的だ。＜「退廃的でない」という意＞

なお、次のように、「比較的」が副詞として使われるのは、むしろ例外的である。

11）１２月に入っても、比較的穏やかな日が続いています。

一部の「－的」による形容動詞は、それ自身で評価的な意味を表している。例えば、

印象的――強い印象を与えるさま。（『広辞苑』）

人間的――人間に関するさま。動物的・機械的などに対して、人の行為・感情の人間らしいさま。特に、思いやりがあることなどにいう。（同上）

2．から<動作を起こす場所>

格助詞「から」には、動作を起こす場所を表す用法がある。この場合、動作の行なわれる場所を表す「で」と違って、「移動性」と「遊離性」が表現されている。つまり、その動作を行うことによって、動作の客体(例えば、例文１の「矢」や例文２の「気象衛星」や例文５の「投稿する(原稿)」)がそこから離れていくか、あるいは動作主体の働きかけを受ける側＝客体(例えば、例文３の「地球」)、または相手(例えば、例文１の城壁の下にいる者や例文４の舞台に立っている者や例文５の新聞社や雑誌社などや例文６のテレビの受信者)が動作の主体と別の場所にいることを表す時に使われるのである。

1）敵は城壁の上から矢を放った。
2）種子島(たねがしま)宇宙センターから気象衛星を打ち上げる。
3）宇宙から地球を見る。
4）客席から拍手が起こった。
5）海外から投稿する人もいる。
6）国慶節の日に、多くの外国のテレビ局が天安門からパレードの様子を中継した。

3．として～ない<数量の全面否定>

「一(いち・ひと)」が付く数量詞「一つ」「一人」「一日」などが「として」の形で取り立てられ、打ち消しの表現と呼応する時は、数量の全面否定を表す。この場合、「一つも」「一人も」「一日も」に言い換えてもあまり意味が変わらない。

1）a. 一つとして指摘すべきところはない。
　b. 指摘すべきところは一つもない。
2）a. 一人としてあの人に同情する者はいない。
　b. あの人に同情する者は一人もいない。
3）a. 一日として遅刻したことはない。
　b. 遅刻したことは一日もない。

更に、「何一つ（として)」「だれ一人（として)」「どれ一つ（として)」という形で用いられると、全面否定を強めることになる。

4）a. 私は彼に対して申し訳ないことは何一つしていません。
　b. 一方、米国は今までの米朝交渉で要求を突きつけるだけで、何一つとして具体的な妥協はしていない。
5）a. 私は何千回も演説したが、どれ一つ満足したものはない。
　b. 上空のあちこちに浮かぶ雲はどれ一つとして同じものはない。
6）a. 都議会にはだれ一人与党がいない。
　b. 三人の子供はだれ一人として頼りにならない。

4．Ｖばよかった

動詞の仮定形に「よかった」が付けば、その動作を行うことが動作主体にとって利益になるのに、実際にはその動作を行わなかった、という話し手の後悔の気持ちを表す文型になる。

1）あの時、よい医者に見てもらえばよかった。

2）何か雑誌を持って来ればよかった、と私は後悔した。

3）早くやめさせておけばよかった。

逆に、動詞の否定の仮定形（～なければ）に「よかった」がつけば、その動作を行わなければ動作主体にとって利益になるのに、実際にはその動作を行ってしまった、という話し手の後悔の気持ちを表す文型になる。

4）余計なことを言わなければよかった。

5）彼女と縁を切らなければよかった。

6）来なければよかった、と後悔した。

5．Nにいわせると（に言わせると）

人名詞（N）は「に言わせると」の形を取れば、後に述べる判断・主張の主体（持ち主）を表す。

1）僕に言わせると、そういう人たちこそ真実の愛国者だ。

2）こうして我輩（わがはい）は飲むから貧乏する、と言う人もあるけれど、我輩に言わせると、貧乏するから飲むんだ。

3）お母さんに言わせると、私はまだ若いでしょう。

4）彼に言わせると、映画を見ると金を取られるが、夢はただだ、夢ほど安いものはないというんだ。

5）青木に言わせると、ハムレットは最も悲しい夢を見た人間の一人である。

6）外国人に言わせると、味噌汁（みそしる）は非常ににおいがきつい。

6．Vてくる／Vていく

もともと移動の動作を表す動詞「来る」「行く」は、具体的な動作を表すのをやめて、アスペクト（aspect）の意味を表すことがある。この場合、仮名書きにするのが普通である。「Vてくる」と「Vていく」との違いについて言えば、発話時点までの変化に重点がある時は「Vてくる」、発話時点以後の変化に重点がある時は「Vていく」を使うことになっている。それを図示すると、以下の通りである。

Vてくる | Vていく

→ | →

基準時点

その外に、以下の例に見られるように、「変化や現象の始まり」を表す時には「V

てくる」を使って「Vていく」は使わないことや、「消滅の過程が進み、終わること」を表す時には「Vていく」を使って「Vてくる」は使わないことなどを挙げることができる。

（1）Vてくる

①変化や現象の始まりを表す。

1）川の水が急に増えてきた。

2）雨が降ってきた。

3）彼は腹が立ってきた。

②変化の過程が進むことを表す。

4）東の空がだんだん明るくなってきた。

5）温度が上がってくるのにつれて色も変わる。

6）だんだん問屋の借りもかさんできた。

③その時点まで動作（活動）が続くことを表す。

7）とにかくわたしは苦労してきた。

8）父はずっと「人事を尽くして天命を待つ」を信条として生きてきた。

9）あの先生はこの大学で30年間教鞭（きょうべん）を執ってきた。

（2）Vていく

①消滅の過程が進み、終わることを表す。

1）満開の桜が散っていくのが寂しい。

2）若いいい人間が死んでいくのはたまらない。

3）消えていく白鳥の群れを見送った。

②変化の過程が進むことを表す。

4）しかし、里子の顔は青ざめていった。

5）農場でいっしょに働いているうちに、少年たちの間には、友情が育っていった。

6）見終わってしばらくして、記憶がぐんぐん鮮明になっていく、そんな経験が時々ある。

7）政府の公共事業費削減の結果、今後、さらに失業者が増えていくことが予想される。

③動作（活動）、あるいは反復的な動作（活動）が続くことを表す。

8）大丈夫、由美（ゆみ）はだれとでもちゃんと暮らしていけるよ。

9）内需拡大、構造調整、市場開放の面で努力していく。

10）投票日までの数日間、余裕をもって政党や候補者の言動を眺め楽しみながら採点していく、というのはどうだろう。

過去のある時点から続くことを表す時、過去形を使う（ただし、到達点が現在である場合には、「してきた」を使って、「していく」は使わない）。

11）それ以後も、確かに連勝記録を伸ばしていった。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com